年頭のご挨拶

三芳町長
林伊佐雄

美しく青く輝く地球
地球は、かけがえのない故郷です。

昨年11月、「世界農業遺産国際会議２０２１」が石川県で開催されました。国連食糧農業機関（FAO）など国際機関をはじめ、国内外の認定地域の代表者や政策担当者、研究者などが一堂に会し、これまでの取組・成果を発表しました。

特に本会議では、英国グラスゴーでのCOP26後の開催ということもあり、世界農業遺産がSDGs（持続可能な開発目標）の達成、気候変動の緩和、生物多様性の保全など世界的課題の解決に貢献することの確認や提言もなされました。改めて世界農業遺産に申請中の当地域の「武蔵野の落ち葉堆肥農法」の使命と役割を再認識しました。

人類の社会経済活動が、産業革命以降加速度的に拡大され、私たちが地球上で安全に生存できる限界を超えようとしています（※1）。人類には、地球の限界の範囲内で、科学技術の発展や持続可能な社会への転換、貧困の緩和と経済成長を追求する新たな発展パラダイムが求められています。

J・ロックストローム（環境学者・スウェーデン）等科学者は、こうした地球の危機に対して、「危機は地球規模で差し迫っている」「すべては密接につながっている」「地球の残された美しさを保全する」など科学的知見にもとづいたメッセージを世界に発信しています（※2）。

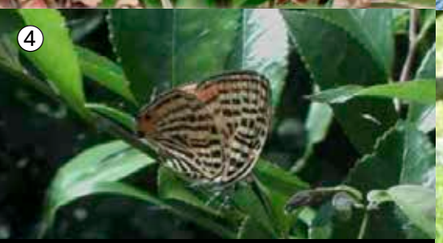
三芳町でも地球の課題を私たちの課題と捉え、「SDGsのまちづくり宣言」を行い、農業遺産による貢献、そして「二酸化炭素排出実質ゼロ」に向けた宣言も予定しています。

持続可能な地球における繁栄と幸福、それはすべての人が平等に持つ権利です。一方で、私たちは未来の子どもたちのために美しい地球を守る責任を共有しています。

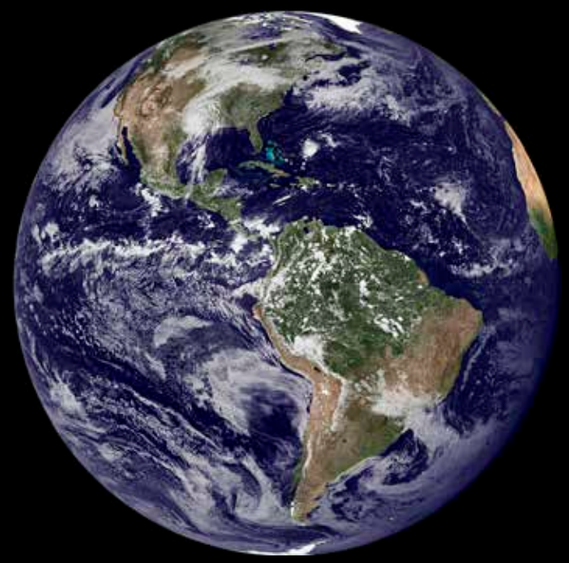
私たちは、未来の子どもたちに待ち受けているかもしれないプラネタリー・バウンダリーと、その悲劇と痛みを想像しなければなりません。そして、持続可能な社会の実現に向けて今こそ行動を起こす時が来ています。

私たちの使命は、子どもたちの未来を守ることです。

※1プラネタリー・バウンダリー〈地球の限界
※2『小さな地球の大きな世界〜プラネタリー・バウンダリーと持続可能な開発』



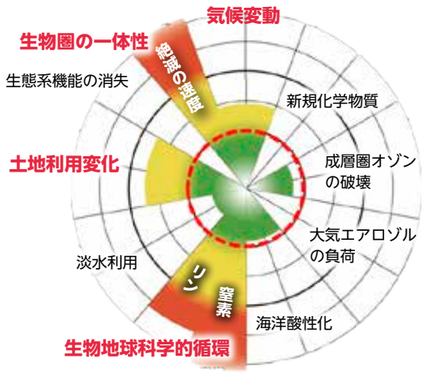
【武蔵野の多様な生態】
①シュンラン②ノスリ③ミヤマセセリ④ウラナミアカシジミ⑤オオタカ⑥キンラン



プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）

危険域に向かう環境

プラネタリー・バウンダリーでは９項目の地球の限界点を定めていて（左図）。赤い点線（地球の限界値）を越えた場合、地球環境に取り返しのつかない変化が急激に起きる可能性があるとされています。



地球の限界の領域内（安全）
不安定な領域（リスク増大）
不安定な領域を越えてしまっている（高リスク）

【引用】Will Steffen et al.「Planetary boundaries:Guiding human developmento on a changing planet」より環境省作成

落ち葉堆肥農法とSDGs

落ち葉堆肥農法を受け継いできた平地林は、二酸化炭素を吸収固定し、地球温暖化に貢献するだけでなく、山野草の繁茂、昆虫たちの繁殖、鳥たちの渡りや営巣地、小動物の食糧確保や生息など生物の多様性を育んでいます。また、落ち葉や枯れ葉を燃やさずに堆肥にし分解するため一酸化炭素やメタンガスの放出を防止します。

▲落ち葉掃きの様子